



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

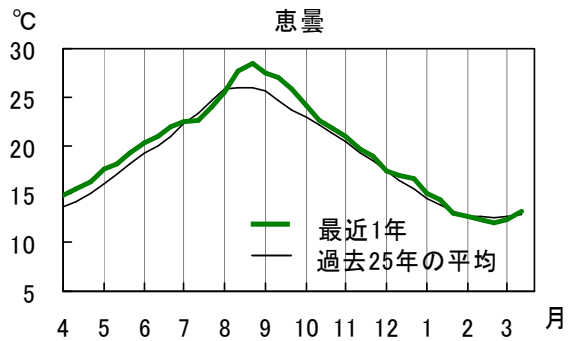
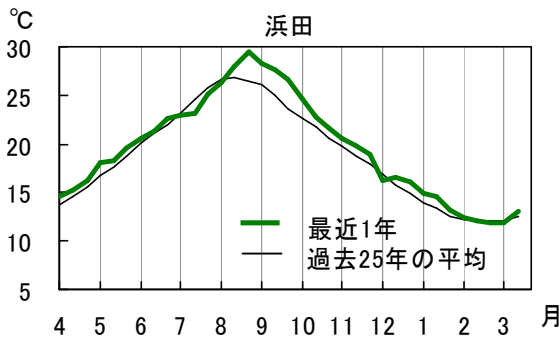
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《2-3月の海況》

2月	月平均	平年差	評価
浜田	12.1℃	±0.0℃	平年並み
恵曇	12.4℃	-0.3℃	平年並み

沿岸定地水温は、2月は浜田、恵曇とも平年並みとなりました。3月も浜田、恵曇とも平年並みで推移しています。



《2月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田ではこの時期の主力のマアジ、マサバが不調だったことから漁獲量、漁獲金額はそれぞれ平年の1割、3割と低調でした。浦郷、西郷でも浜田と同様にマアジ、マサバが不調で漁獲量はそれぞれ平年の8割、6割でしたが、カタクチイワシなどの単価が高かったことから漁獲金額はそれぞれ平年の1.5倍、1.4倍となりました。

【イカ釣漁業】

各地区ともスルメイカ主体の漁獲でした。浜田港（属地5トン以上）では漁場形成が良好であったことから漁獲量は前年の1.2倍、平年の1.4倍と好調でした。西郷（属人5トン以上）でも隠岐海峡周辺である程度まとまった漁場形成が見られましたが、漁獲量は比較的好調であった前年の4割、平年の7割に留まりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では1ヶ統1航海あたり漁獲量は、平年（過去10年平均）、前年を下回りました。漁獲の主体はマフグ、ソウハチ、スルメイカでした。マフグは漁獲量、金額とも約2割を占めました。

【小型底びき網漁業】

久手地区ではニギス、ソウハチ、ヒレグロが、和江地区ではソウハチ、ヒレグロが主に漁獲されました。総漁獲量は両地区とも平年、前年を下回りました。時化が続き、出漁日数が前年、平年の7割程度に留まったことが主な原因と考えられます。

【定置網漁業】

出雲地区ではスルメイカが平年の約3倍、ヤリイカが平年の約5倍と豊漁で、他にもマアジ、クロマグロ（ヨコワ）などが多く漁獲されたため、漁獲量は平年の1.9倍と好調でした。隠岐地区では漁獲物の9割以上をスルメイカが占め、全体の漁獲量は平年の1.2倍となりました。なお、石見地区の大型定置網は多くが休漁でした。

【釣・縄】

各地区とも時化が続いたことから低調に推移しました。石見地区ではサワラ、アマダイ、メダイなどが漁獲され、漁獲量は平年の5割でした。出雲地区ではブリ、ヤリイカなどが漁獲され、漁獲量は平年の8割でした。隠岐地区ではメダイ、スルメイカ、ブリなどが漁獲され、漁獲量は平年の5割でした。

【平成 20 年 2 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ、マサバ、スルメイカ	25トン	5	6	3トン	11	12	▲
	西郷	カタクチイワシ、マアジ	1,480トン	54	56	26トン	54	48	▲
	浦郷	スルメイカ、カタクチイワシ	1,187トン	80	82	25トン	70	66	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	348トン	122	137	1,633 kg	133	172	◎
	西郷	スルメイカ	21トン	38	66	323 kg	103	53	○
沖合 底びき網	浜田	マフグ、ソウハチ、スルメイカ	347トン	102	91	11.6トン	78	88	▲
小型 底びき網	久手	ニギス、ソウハチ、ヒレグロ	136トン	63	84	725kg	100	113	◎
	和江	ソウハチ、ヒレグロ	196トン	74	78	761kg	109	109	◎
定置網 (大型)	浜田	—	—	—	—	—	—	—	—
	美保関	スルメイカ、ヤリイカ、マアジ	105トン	128	235	1185kg	130	123	◎
	浦郷	スルメイカ	96トン	126	142	3427kg	126	218	○
釣り・縄	仁摩	サワラ、メダイ	8トン	49	53	31kg	70	56	▲
	大社	ブリ	17トン	31	50	44kg	66	84	○
	西郷	メダイ、カサゴ・メバル類、スルメイカ	7トン	56	41	48kg	103	54	○

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下